加茂農林高等学校林業工学科

カナディアンカヌー製作

地域住民と触れ合える憩いの場造りの一端を担いたい。

▲製作風景

加茂農林高等学校林業工学科では、3年生の有志6人と職員3人、講師1人で、夏休み期間中を利用してカナディアンカヌーを製作しました。

宮浦池が整備されるということで、学校全体がビオトープ(注)となり、地域住民と触れ合える憩いの場造りの一端を担いたいと考え、カヌーを製作することになりました。

製作期間は10日間。生徒たちは、それぞれ就職・進学活動や本来の実習、また、部活動などの合間を縫って製作に励みました。技術的にもかなり難しい工程があり、また、全員のスケジュールを合わせ、決められた時間内に製作していくことが、とても大変だったそうです。

生徒たちは、「最初はできるかどうか不安な気持ちがありましたが、出来上がったらなかなか立派な物ができた」と満足げでした。

カヌーは、11月の学校祭の時には池に浮かべ、水質などの環境調査やアウトドアなどに利用する予定だそうです。

▲左から安江源樹(げんき)君、中島正博君、五十川大晃(いそがわひろあき)君、林　紀男君、　福田明洋君、辻　正彦君

宮浦池を地域の宝に

生き物の楽園「宮浦池ワールド」―によせて

加茂農林高等学校長　日比野安平さん

本校は「生命を育て、ものを造る」ことを通して、豊かな人間教育を目指しています。現代の農林業の果たす役割は、従来の食糧の増産や木材の供給にとどまりません。21世紀は「食と環境の時代」とも言われています。戦後の食糧増産の時代から、おいしく安全な物の生産へと役割が多様化してきています。森林は、温暖化や環境汚染がいわれる現代にあっては巨大な二酸化炭素の貯蔵庫であり、新鮮な酸素やきれいな水の供給源です。

人は自然とともに生きるようにできています。宇宙飛行士が宇宙船の中で、麦を育てることを通して心の安定を図っているという話があります。このことは、現代社会に深い示唆を与えています。

さて、先般市によって宮浦池のしゅんせつが行われ、ビオトープ(注)としての環境が整備されました。この池や周辺の林は以前から大切な学習の場となっており、多くの生物の貴重な生育環境として市民の皆さまに大切にされてきました。

今年の5月には、鳥取県の大山町で第57回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」が開催され、この宮浦池と林を対象とした研究に対して、野生生物保護功労者として常陸宮さまご夫妻ご列席の下で環境大臣賞が授与されました。この鳥取県はあの有名な「兎追(うさぎ)いしかの山…」と唄(うた)った「ふるさと」の作曲者岡野貞一氏の故郷です。この歌詞にあるように、故郷の山はひたすら青く、川はあくまでも清くなければなりません。

市民の皆さまにはどうかこの宮浦池を地域の宝とし、美濃加茂市の自然を命の源として守り育ててくださることを願ってやみません。

（注）ビオトープ・・・都市、そのほかの地域の植物、小動物、昆虫、鳥、魚などが共生できる生物生息空間を、保全、造成または復元した場所。